



煌めく大地と月夜のはざま
銅山谷の産屋で生をうける



命、天と地の関係を考える

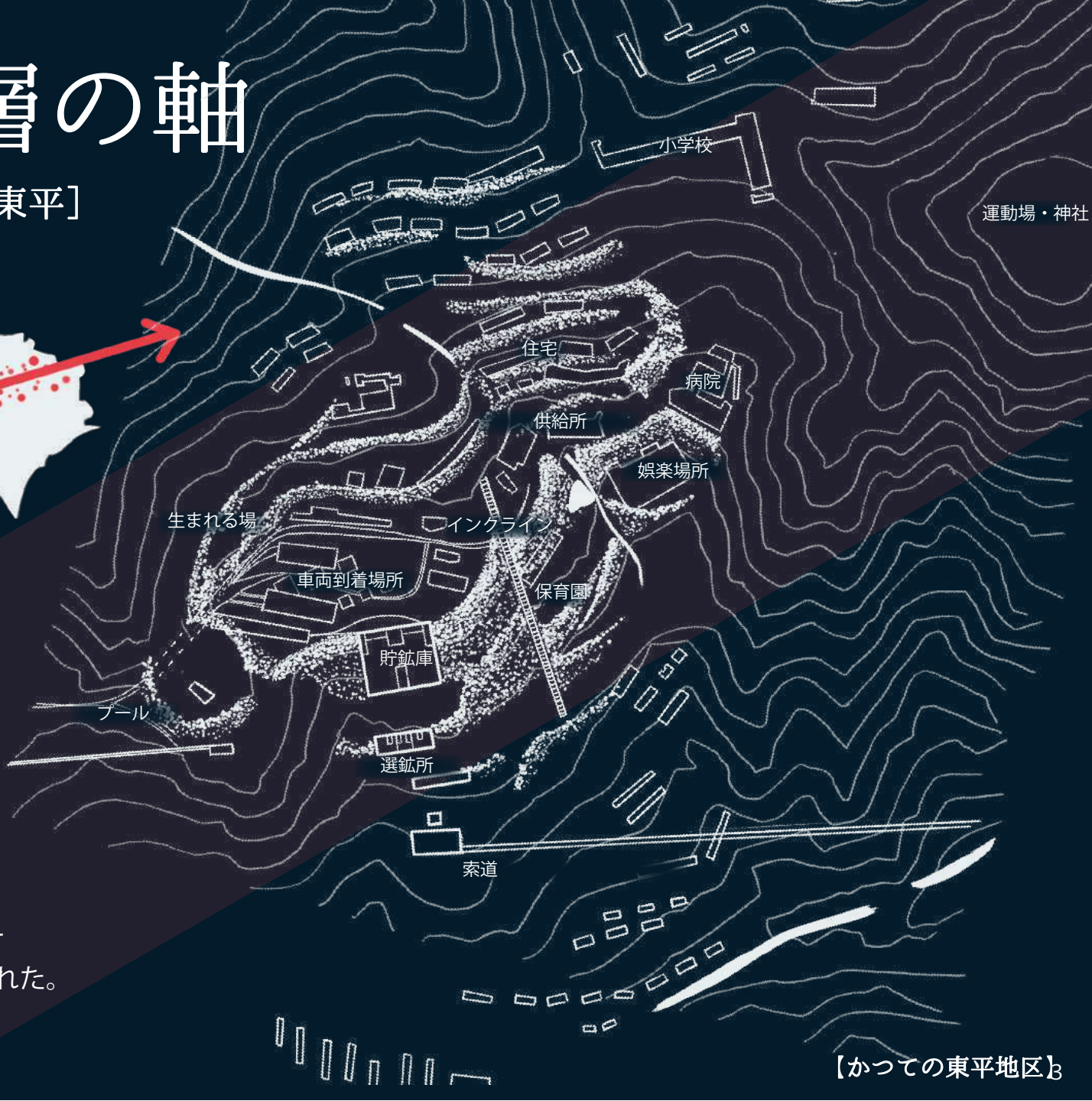
生まれること。
それは、だれも予想できない人生の幕開け。
生まれる場所。
今も昔も変わらず広がる喜びの空間。

「煌めく大地と月夜のはざま、東平地区」を
出産の場として選んだ家族があなたに贈る

いちばん最初の贈り物。

X：地層の軸

[別子銅山としての東平]



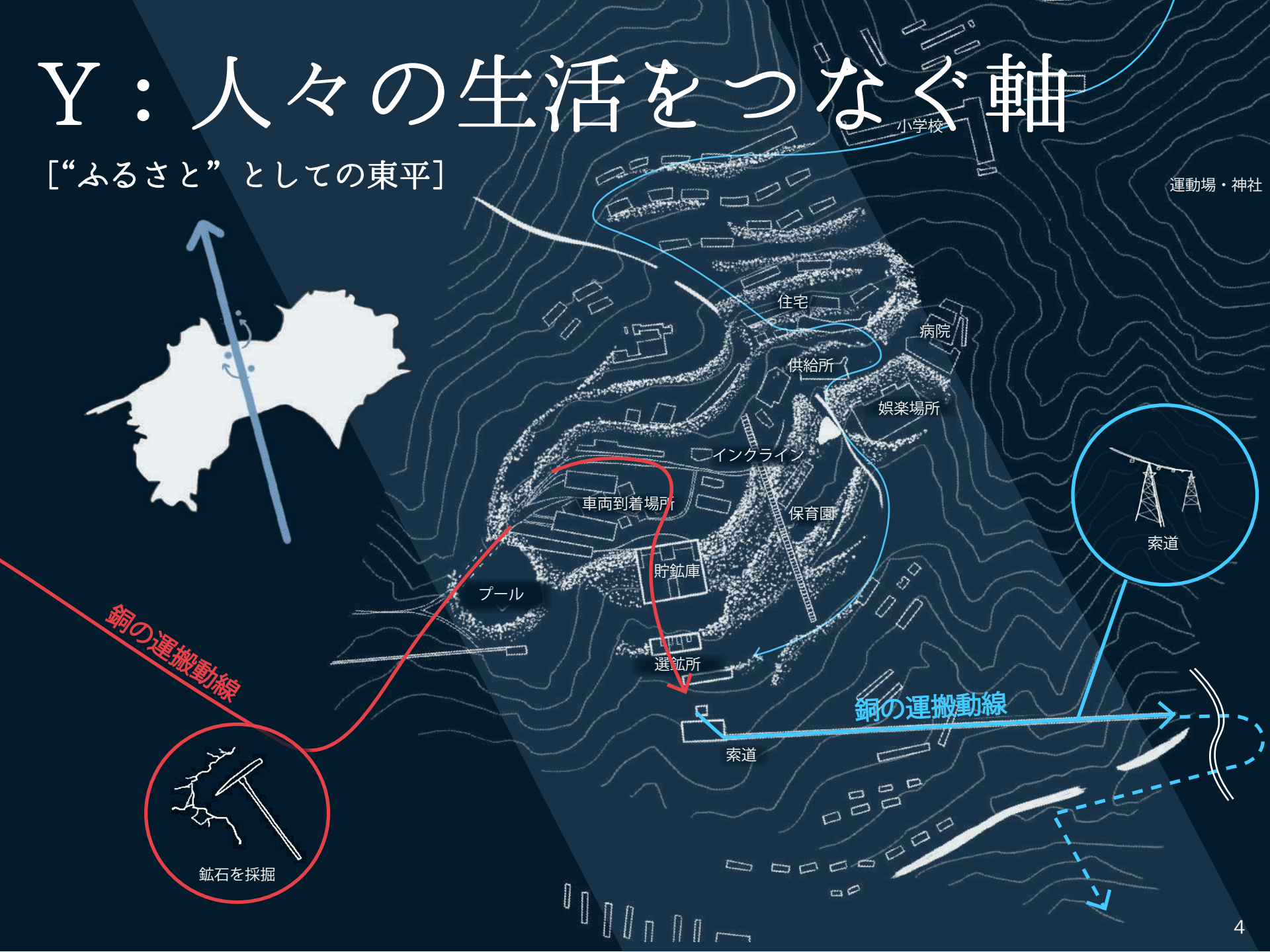
プレート同士がぶつかり
海底の堆積物が
隆起してできた四国。

地球上でも稀に見る
地上に近い鉱脈地として
別子鉱床が生まれた。

【かつての東平地区】

Y：人々の生活をつなぐ軸

["ふるさと"としての東平]



[銅が“生まれ”、流通するまで]

旧別子



銅鉱石



鉱石を採掘



鉄道

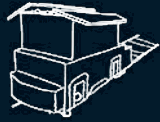
旧別子：東平地区



貯鉱庫



選鉱所



鉄道

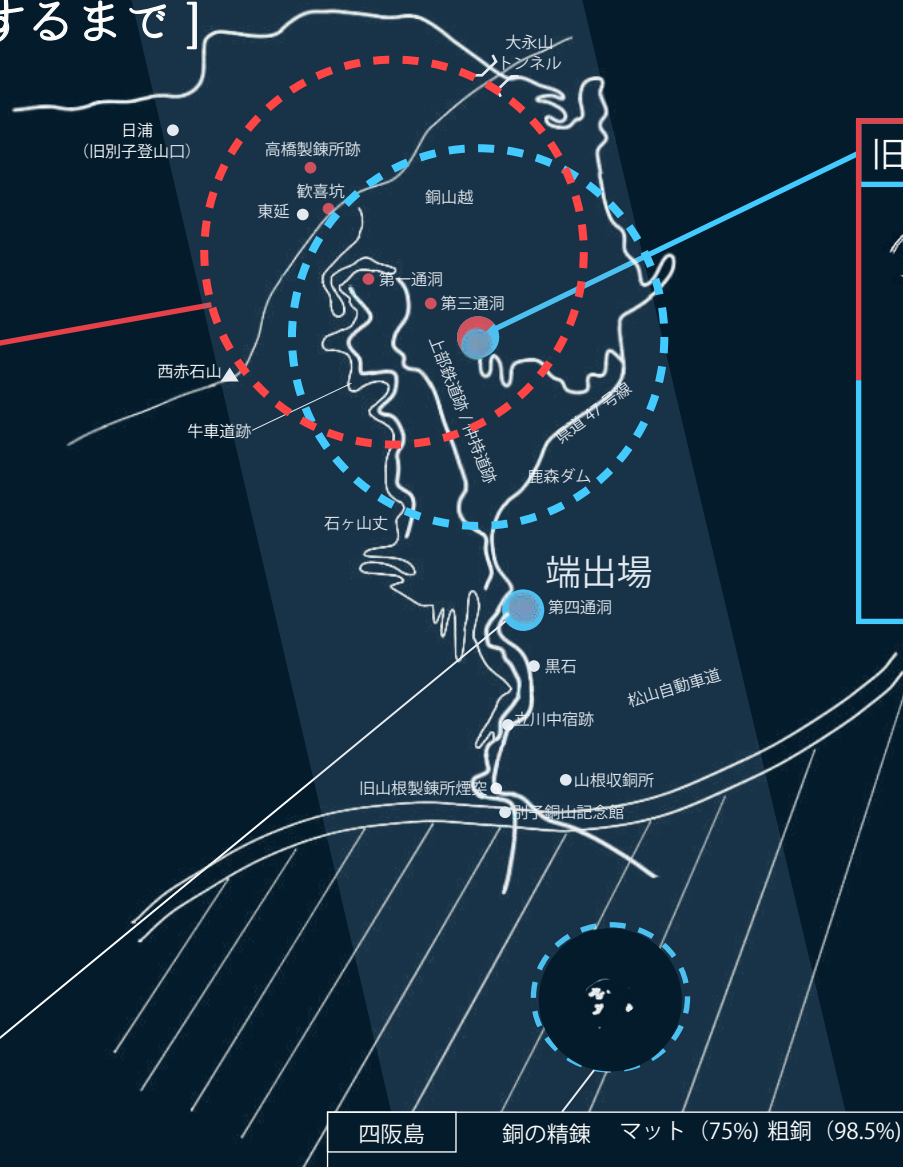
端出場地区



索道



銅精鉱



四阪島

銅の精錬 マット (75%) 粗銅 (98.5%) 陽極板 (99.5%) 陰極板 (99.5%)



溶融炉



転炉



精製炉



アノード

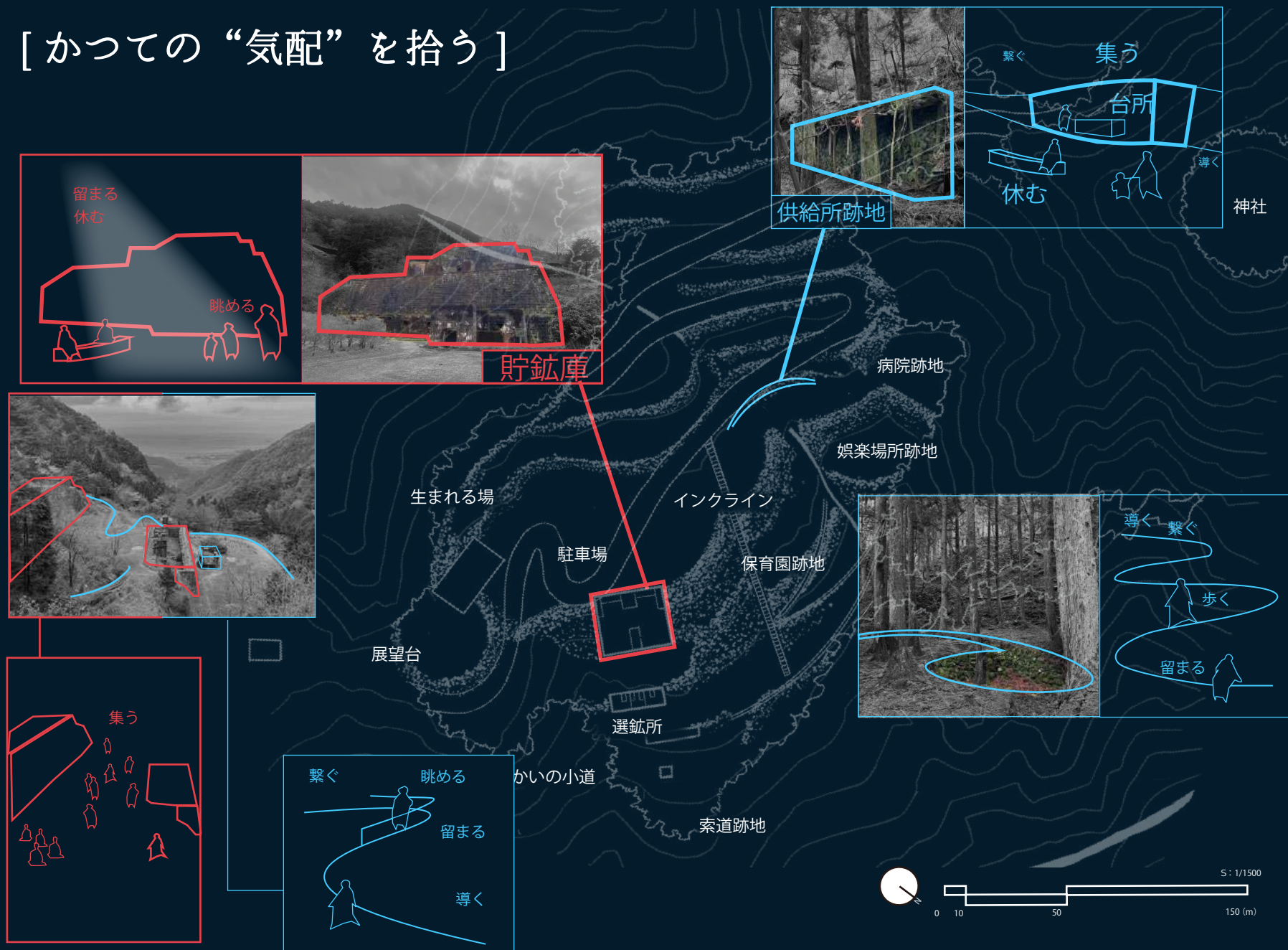


銅電解

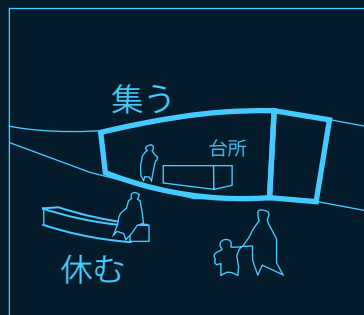
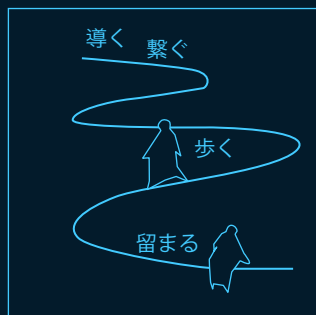


電気銅

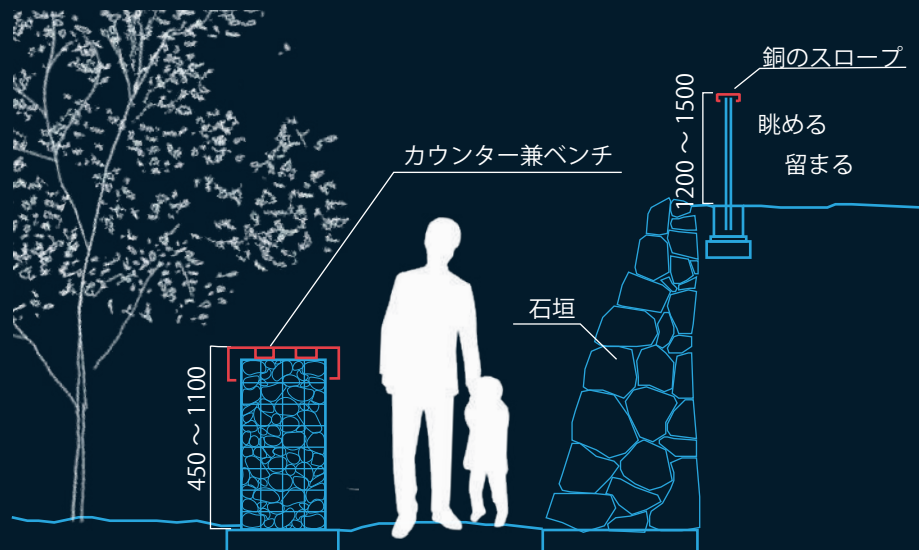
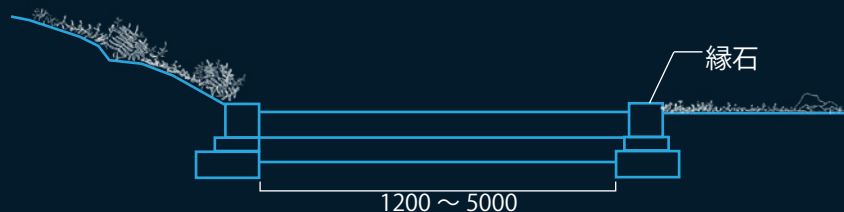
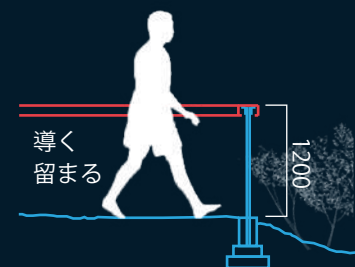
[かつての “気配” を拾う]



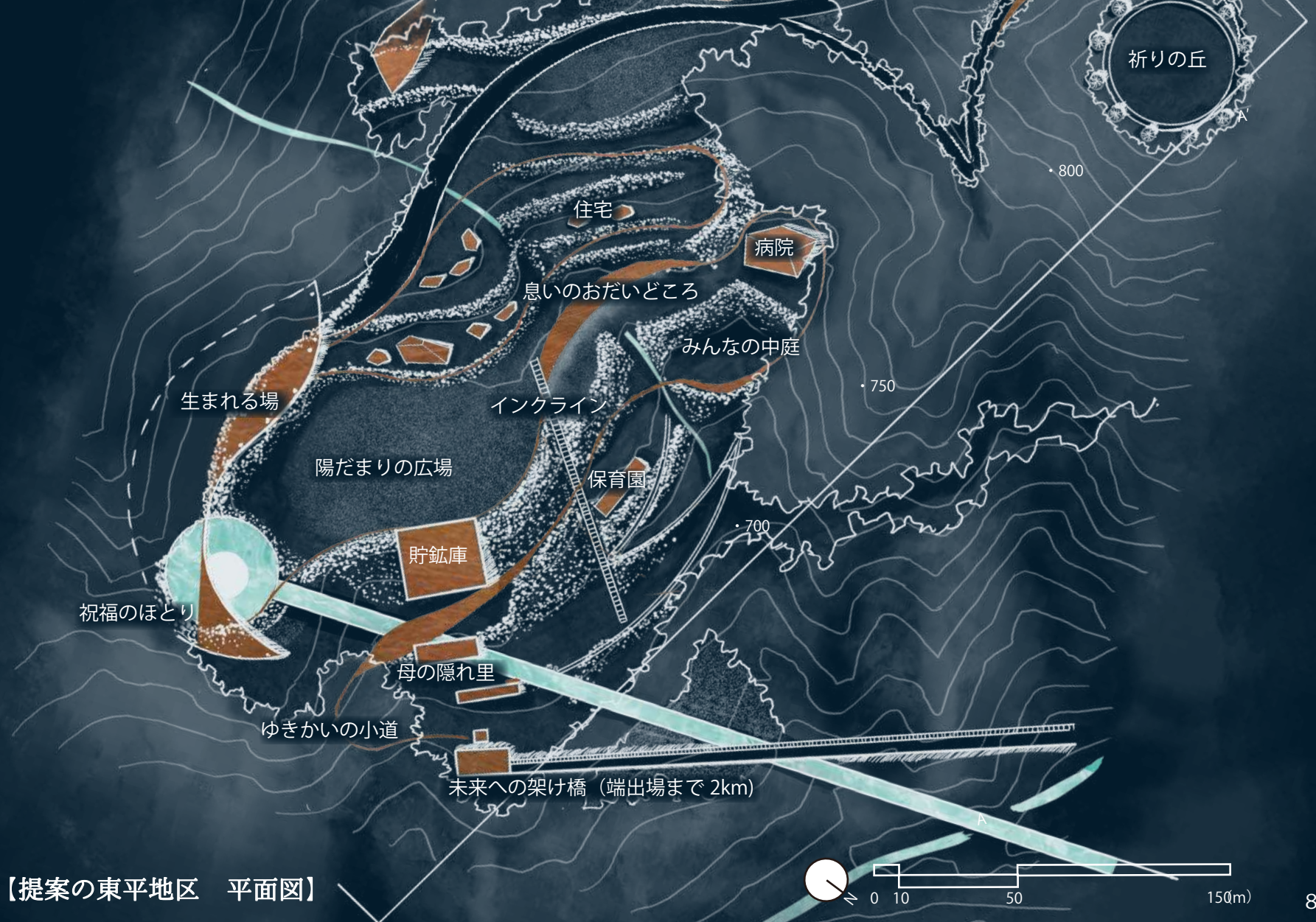
[かつての “気配” を拾う]



×



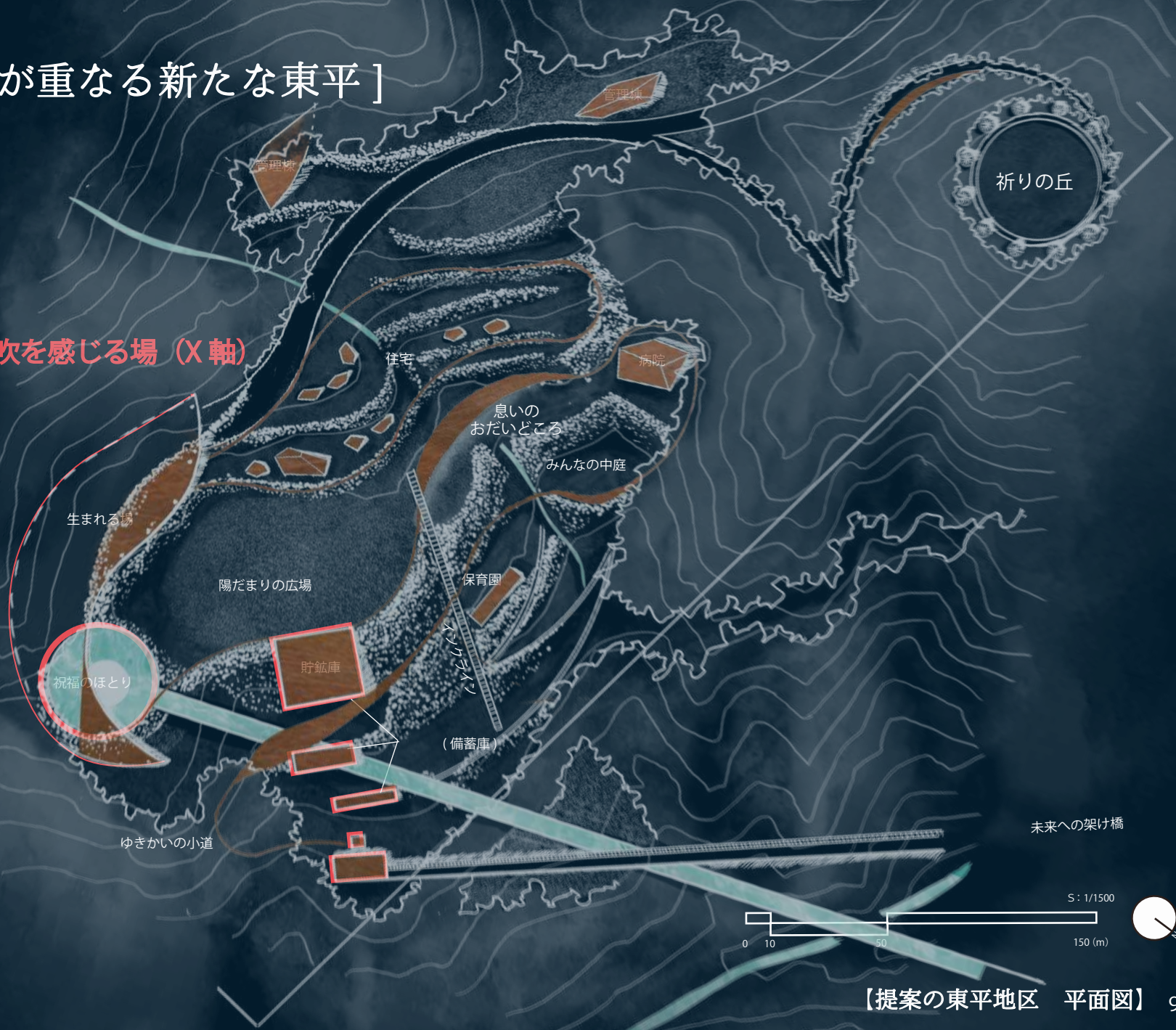
[X と Y が重なる新たな東平]



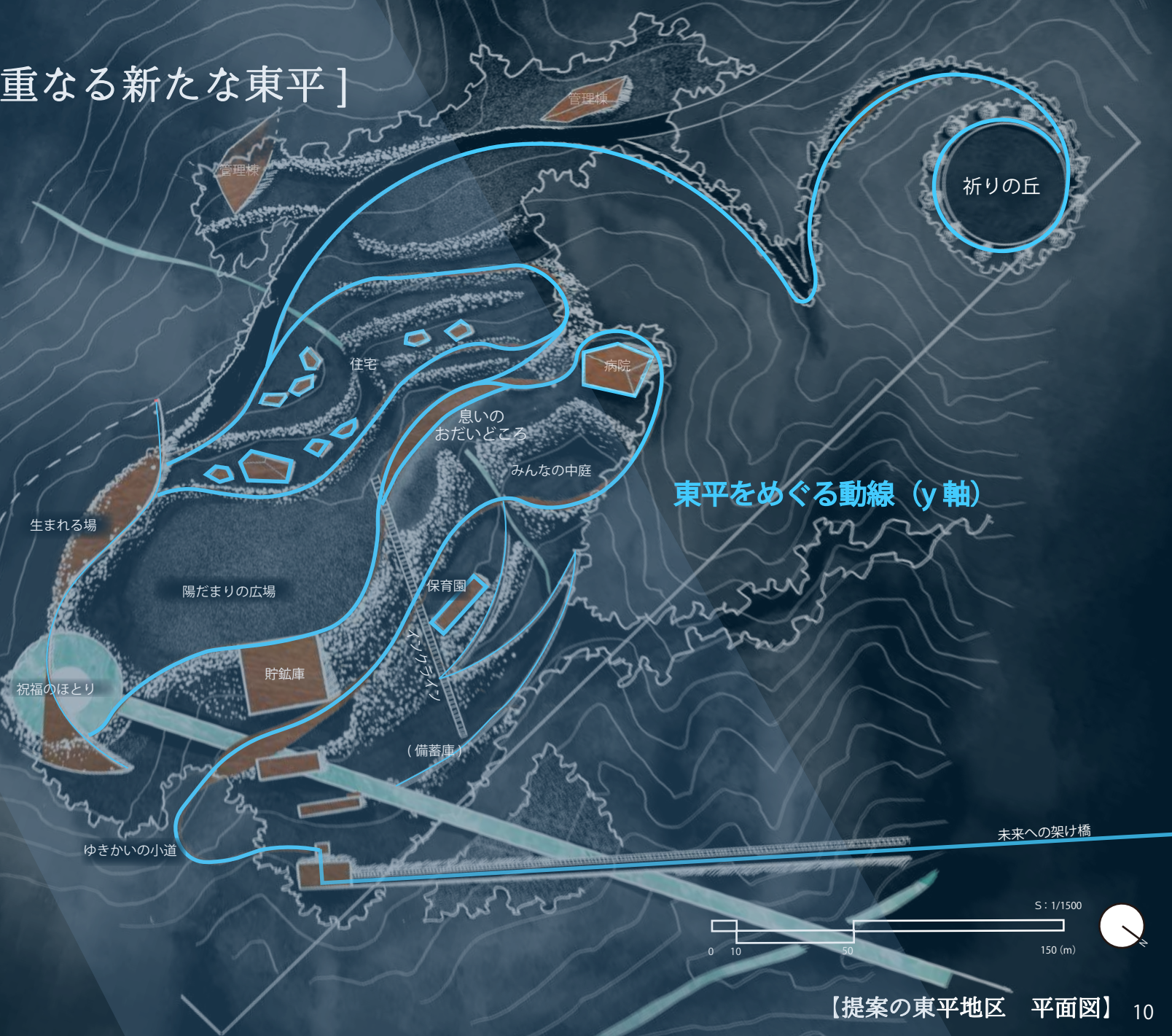
【提案の東平地区 平面図】

[X と Y が重なる新たな東平]

“銅”の息吹を感じる場 (X 軸)

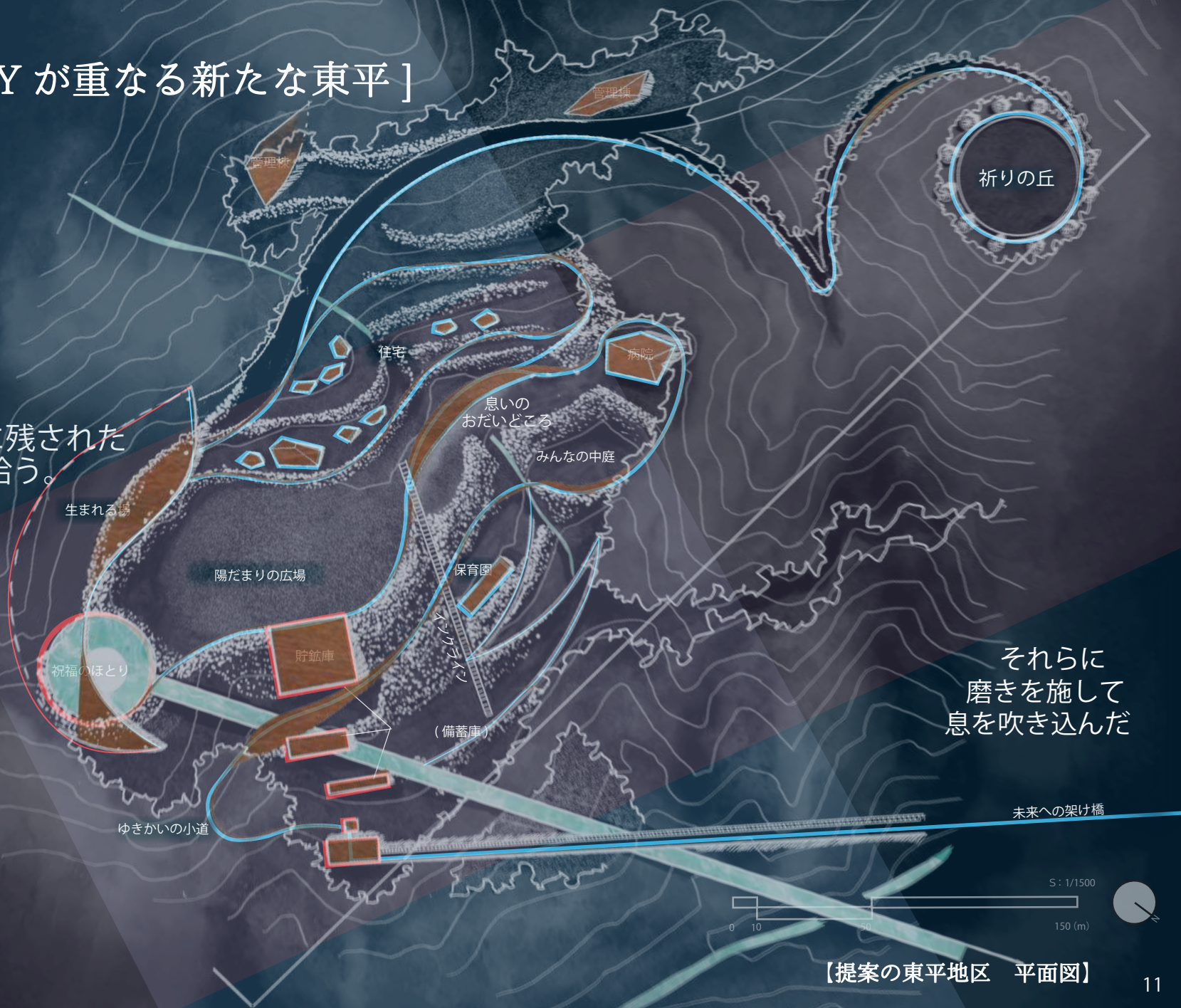


[X と Y が重なる新たな東平]



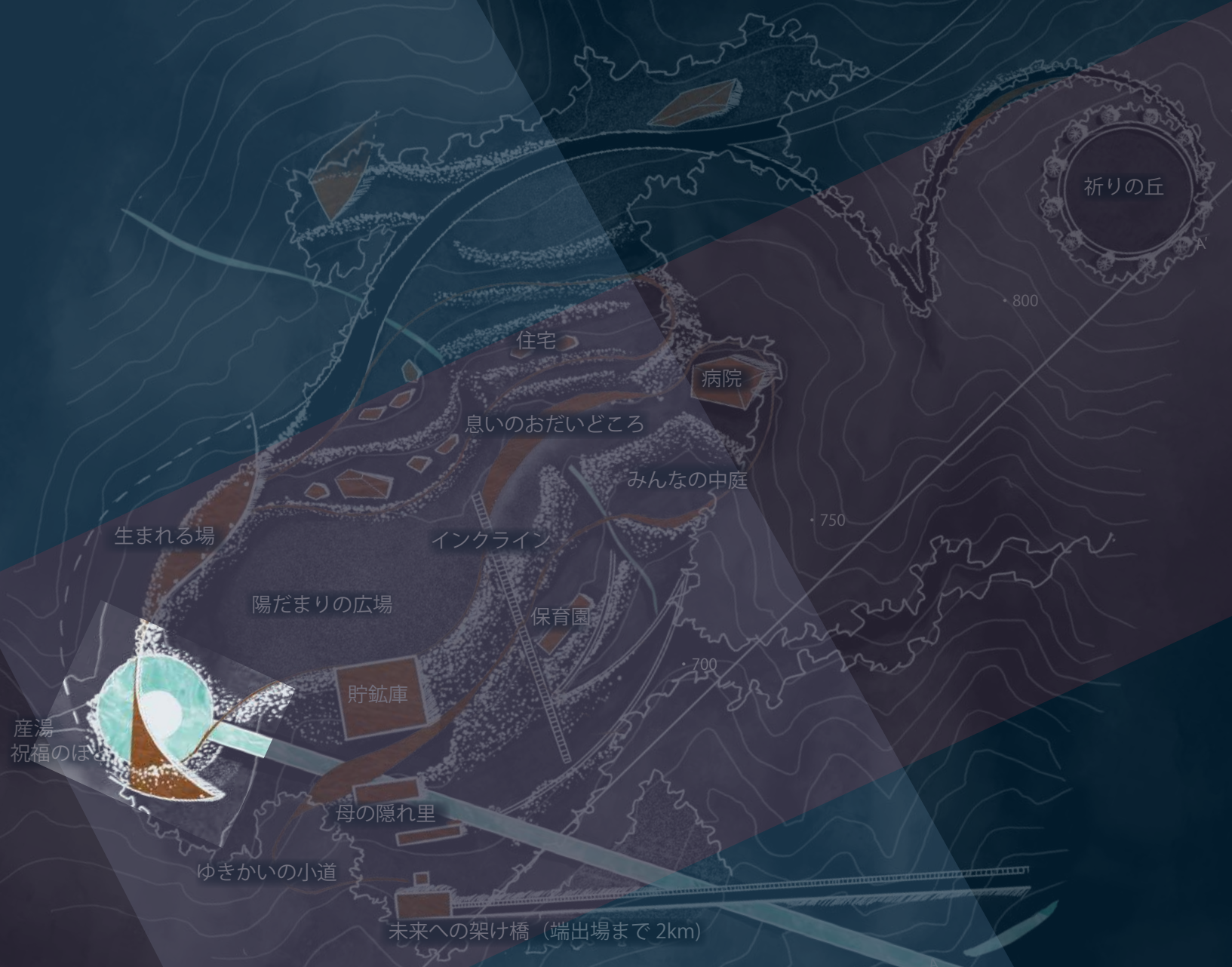
[X と Y が重なる新たな東平]

元々ある
軸の帯上に残された
“気配”を拾う。



それらに
磨きを施して
息を吹き込んだ

【提案の東平地区 平面図】



祈りの丘

800

住宅

病院

息いのおだいどころ

みんなの中庭

750

生まれる場

インクライン

陽だまりの広場

保育園

700

貯鉱庫

産湯
祝福のぼた

母の隠れ里

ゆきかいの小道

未来への架け橋 (端出場まで 2km)



産湯

ヒメノガリヤス

ヘビノネゴザ

ススキ





未来への架け橋

スギ・ヒノキ



月 日 が 流 れ . . .



結婚式





祈りの丘

800

住宅

病院

息いのおだいどころ

みんなの中庭

750

生まれる場

インクライン

陽だまりの広場

保育園

700

貯蔵庫

産湯
祝福のほとり

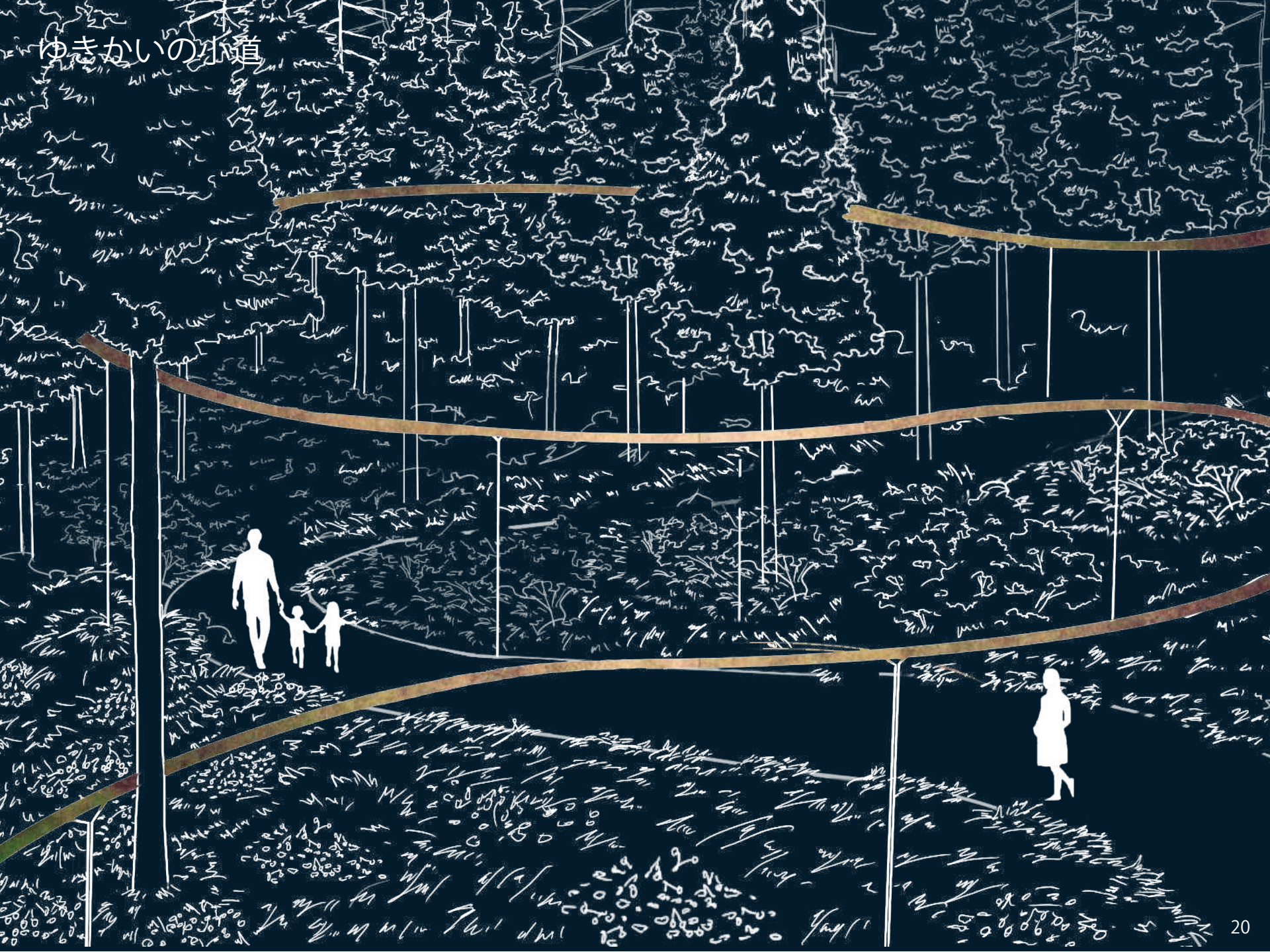
母の隠れ家

ゆきかいの小道

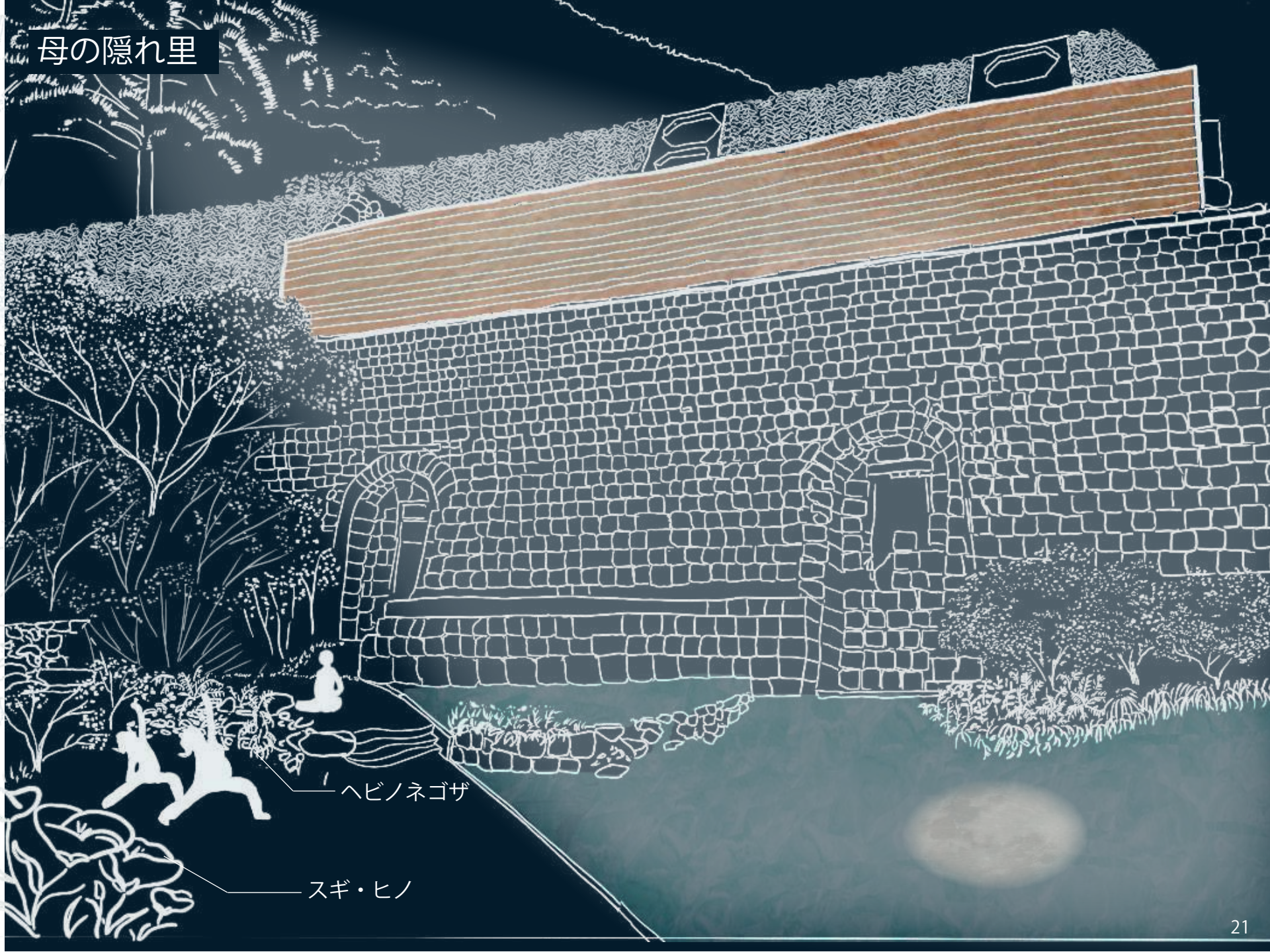
未来への架け橋 (端出場まで 2km)



ゆきかいの小道



母の隠れ里



ヘビノネゴザ

スギ・ヒノ

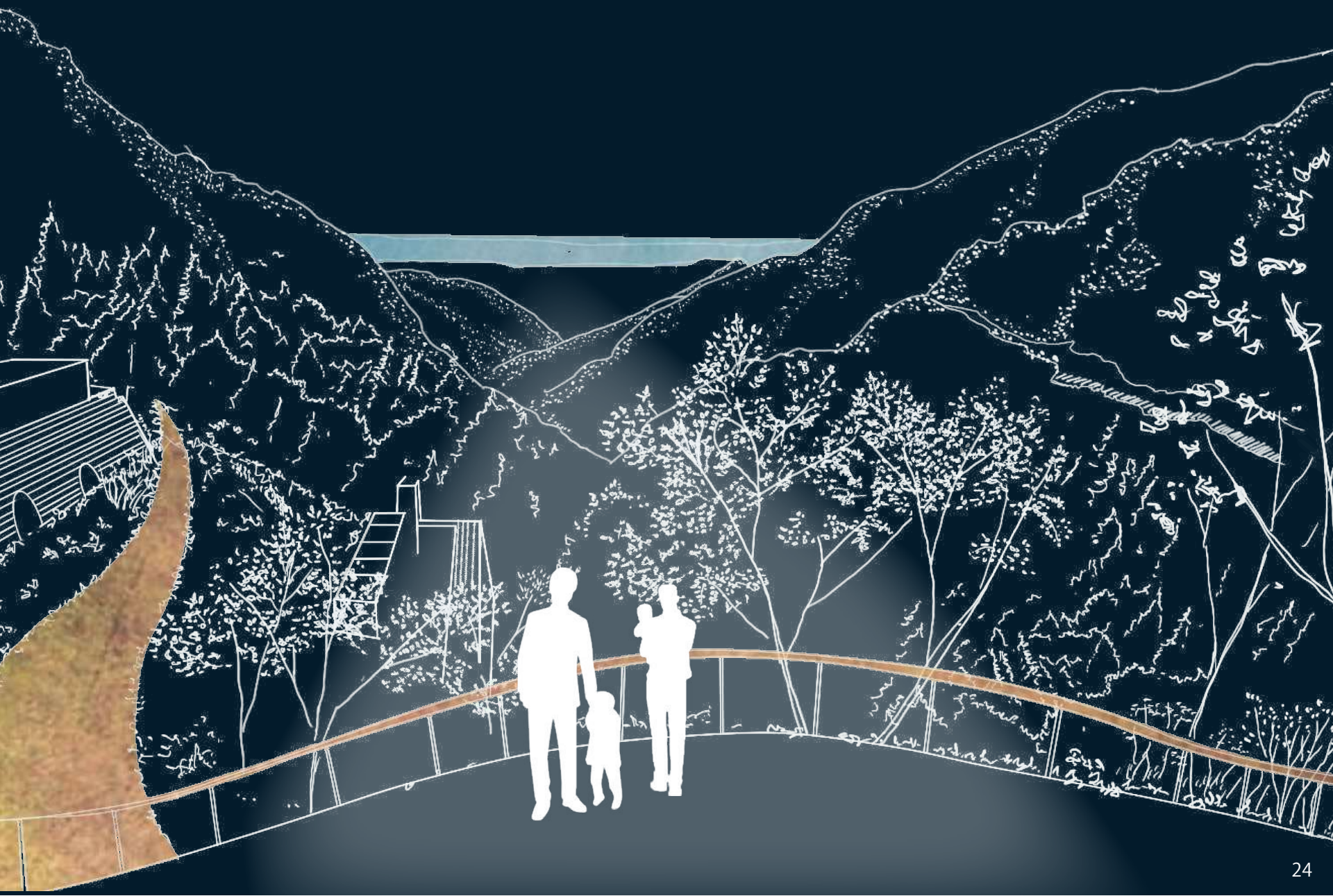


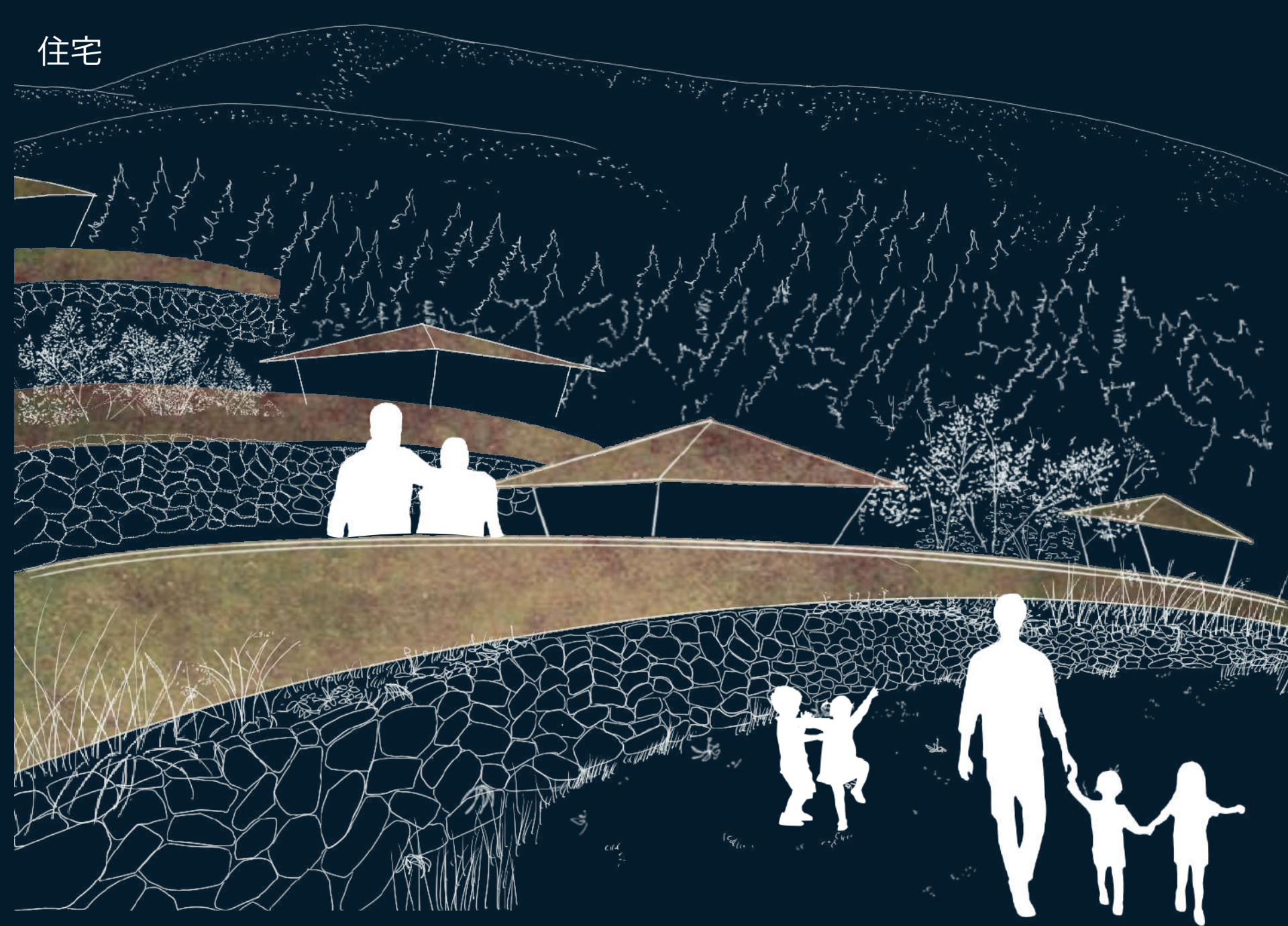
スギ・ヒノキ

ヘビノネゴザ



陽だまりの広場









タカネオトギリ

コバノミツバツツジ

アカマツ

祈りの丘

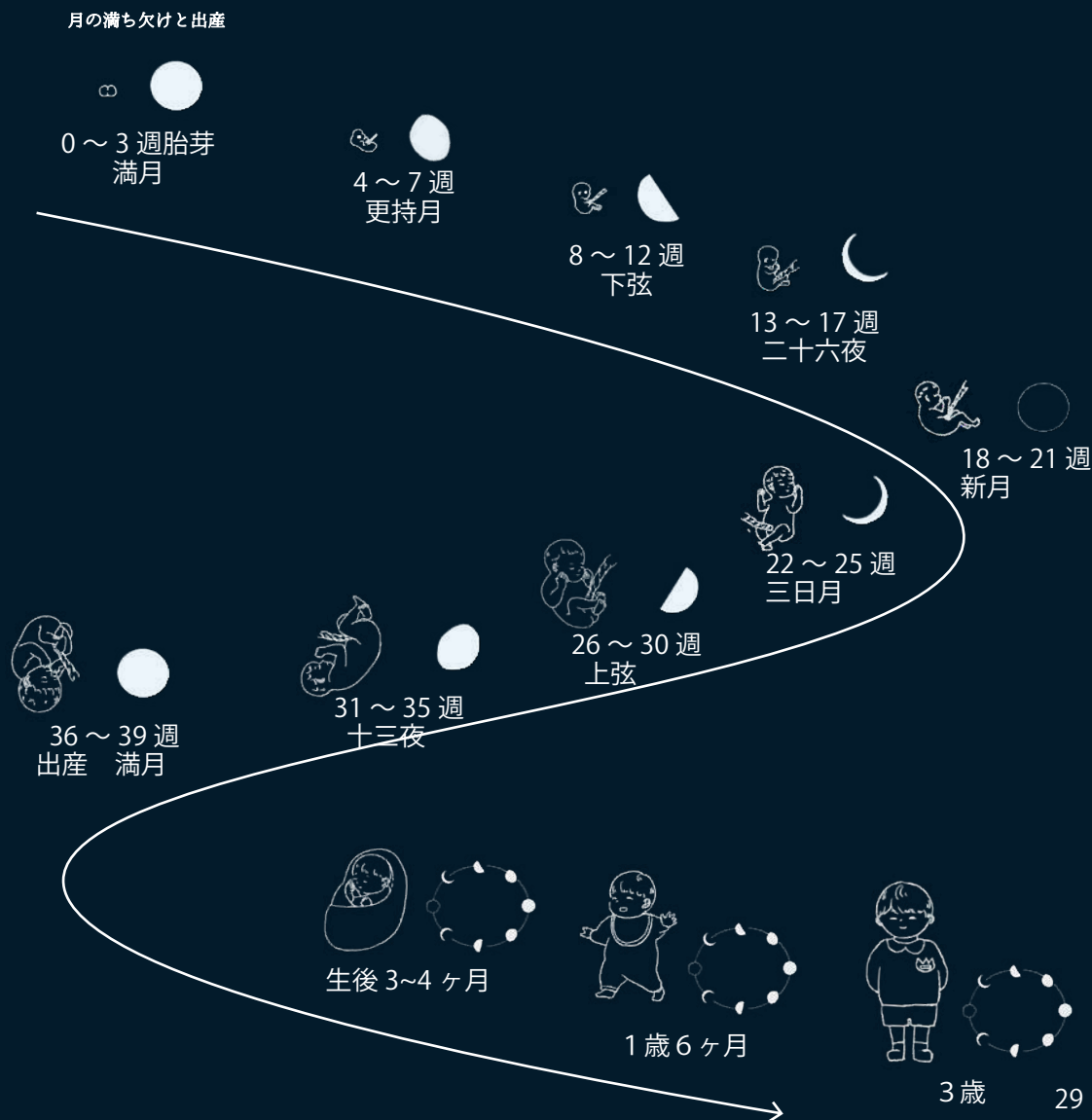


Z：天と大地を結ぶ軸

[出産と月]



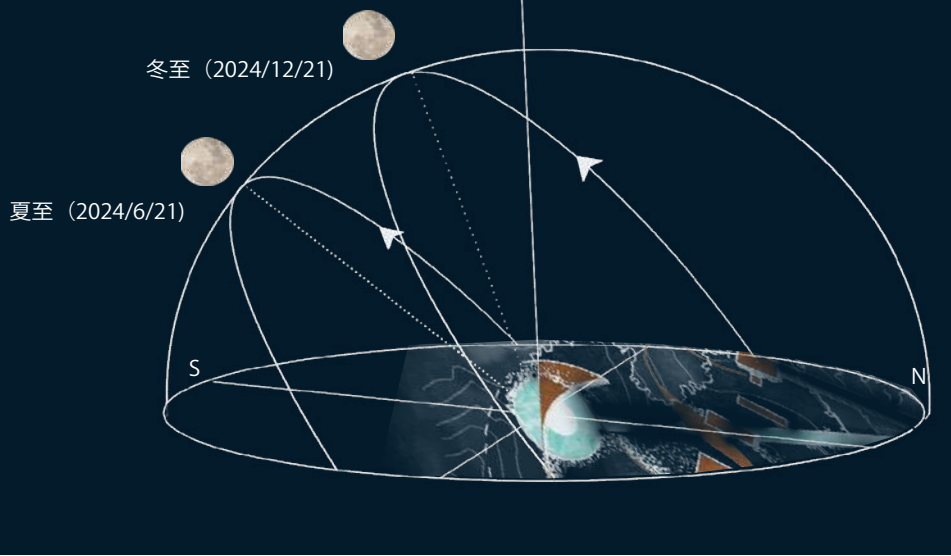
月の満ち欠けと出産は関係しており、満月に生まれる子供が多いと言われている。



【うまれる場：内部構成】

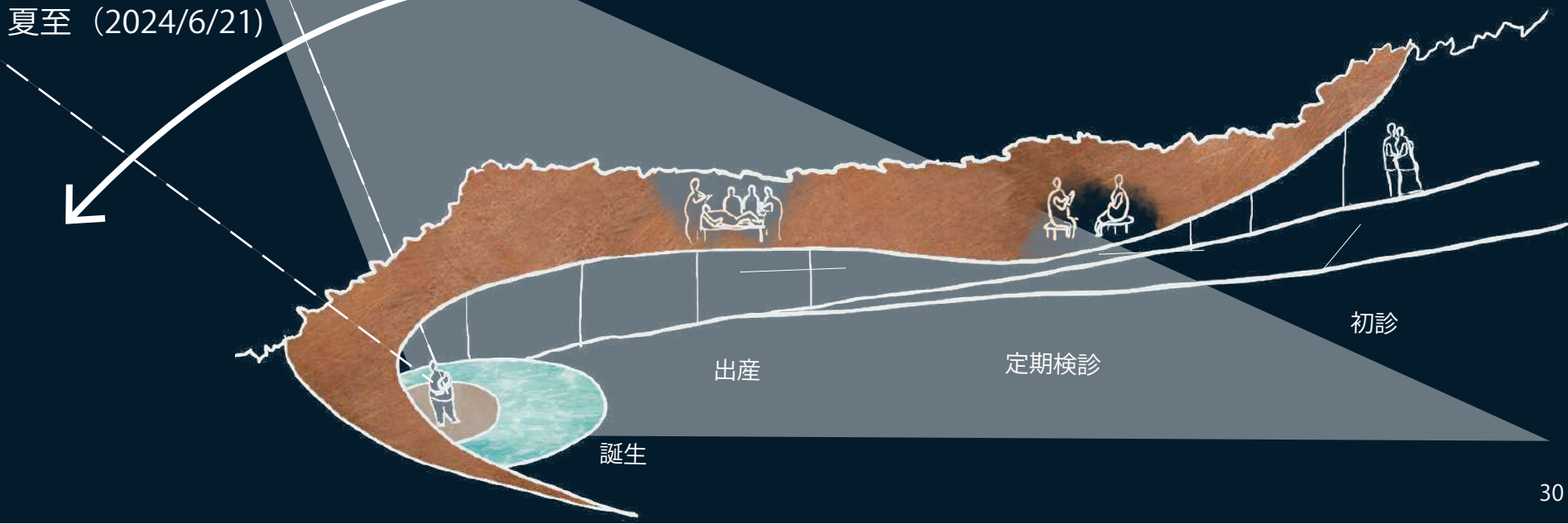


【月の位置】



冬至 (2024/12/21)

夏至 (2024/6/21)



産湯
祝福のほとり

生まれ

陽だまりの広場

インクライン

息のおだいどころ

住宅

病院

みんなの中庭

保育園

貯鉱庫

母の隠れ里

ゆきかいの小道

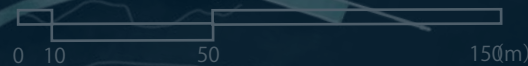
未来への架け橋 (端出場まで 2km)

祈りの丘

・ 800

・ 750

・ 700







祝福のほとり



オオバコ ススキ

ツワブキ

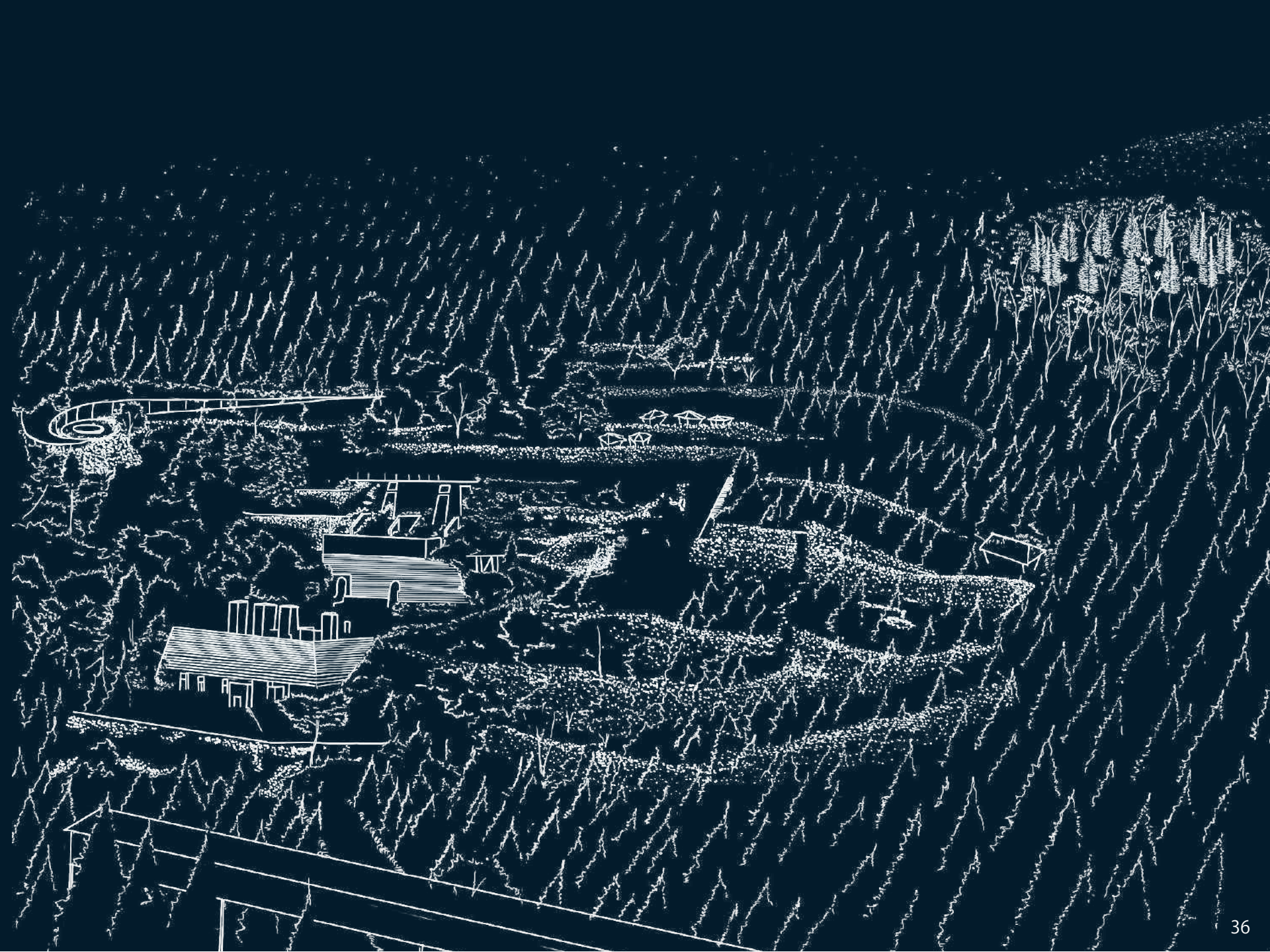
カタバミ
ヨモギ

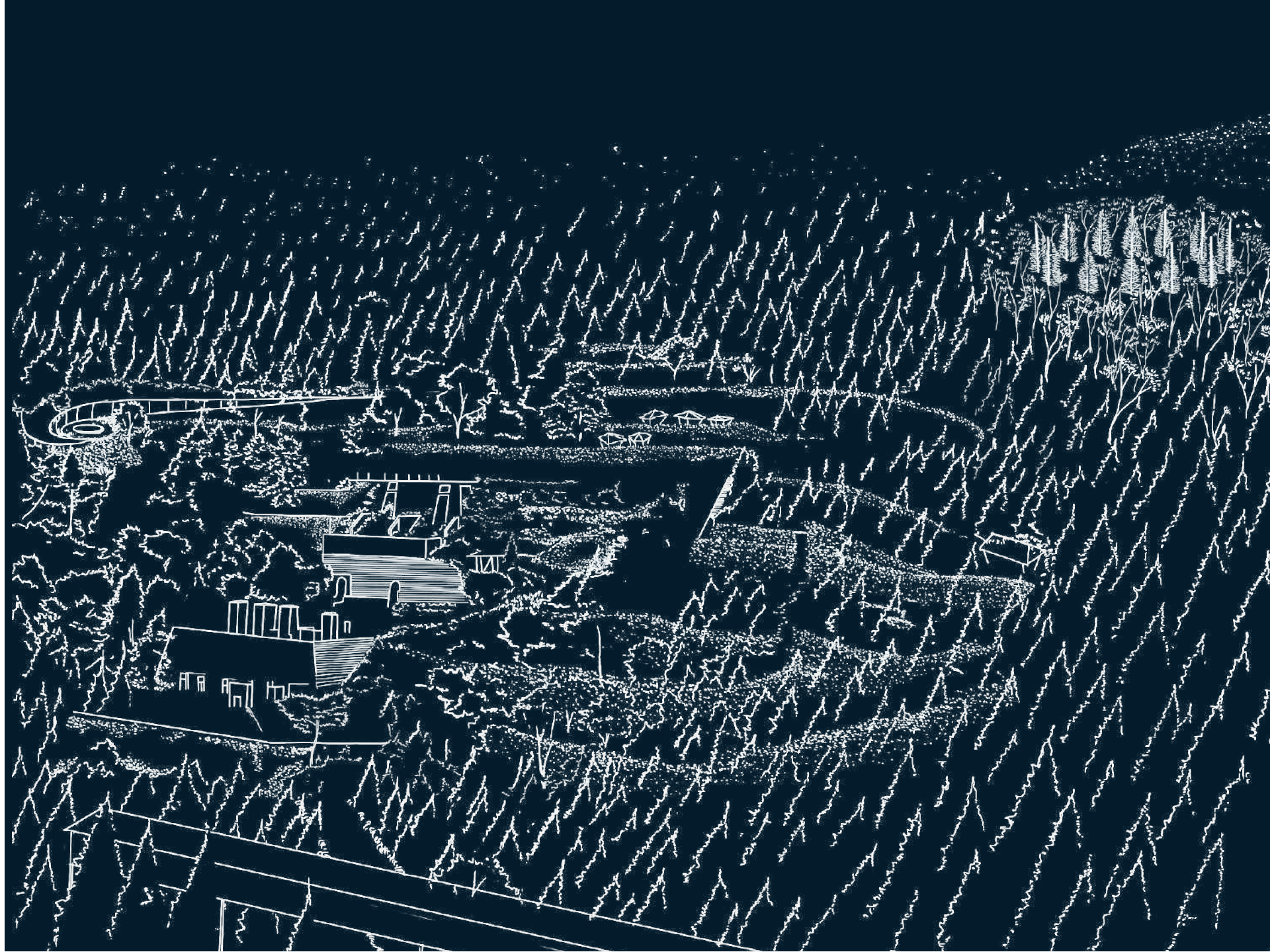


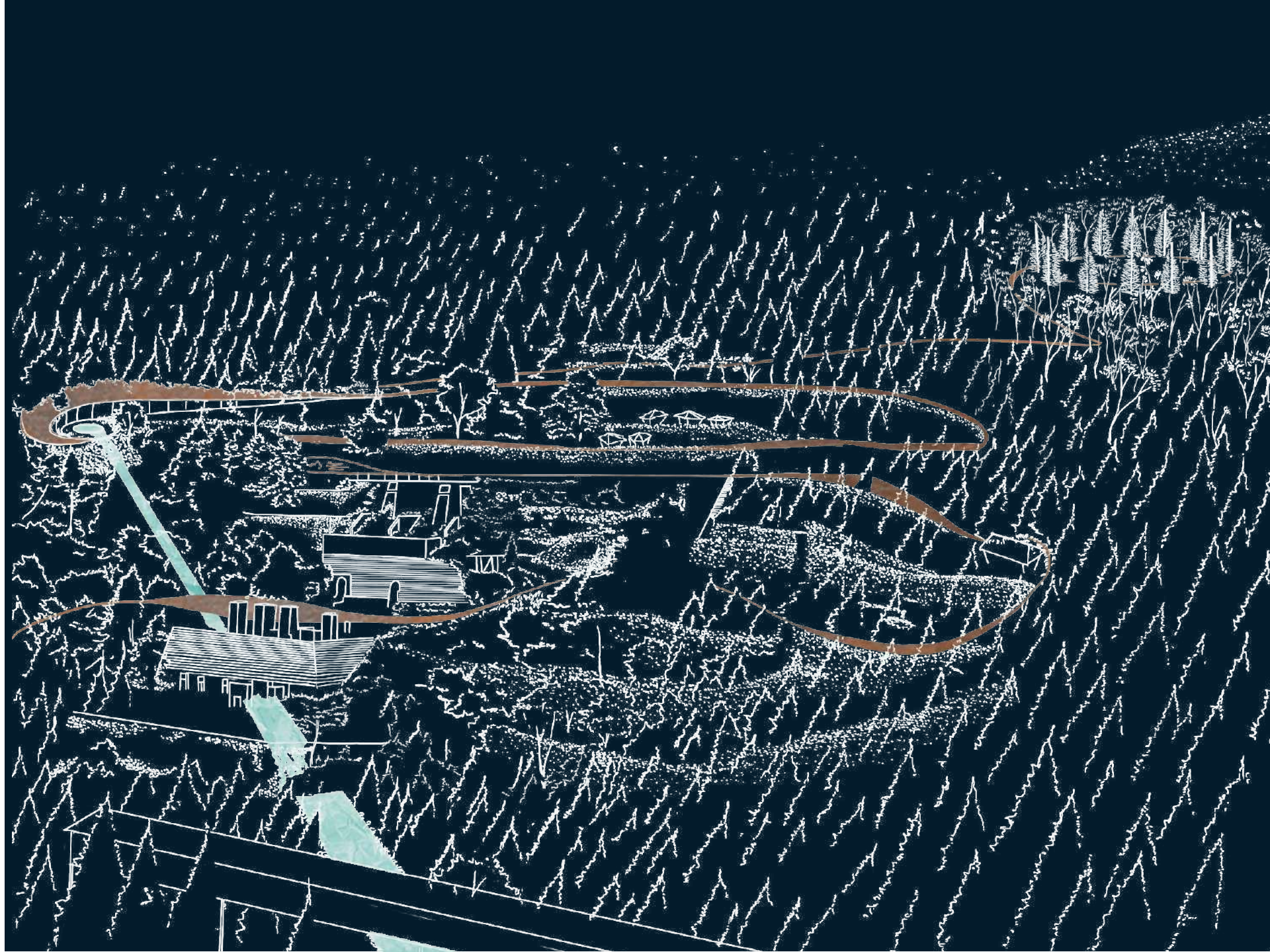
「煌めく大地と月夜のはざま、東平地区」を
出産の場として選んだ家族があなたに贈る

いちばん最初の贈り物。











【要約】

天があり、地があることが当然であるように、私たち人間は誰しも人から生まれてきたという事実は変わらない。一方で、生命に対する向き合い方は社会構造の変化とともに変わり続けている。「命とは何か」「地球という大地に降り立った私たちは大地とどう繋がれてきたのか」という問いに向き合う地として、「銅山谷の産屋」を愛媛県東平地区別子銅山に提案する。

東平地区は、鉱夫やその家族が住んだ証として遺構や面影が残る集落。

人の生まれ落ちる場所を再認識するための“軸”を定義づけた。

地球の地層を x 軸

東平の人々の生活を繋いだ y 軸

天と地を繋ぐ z 軸とした。

銅 (x 軸) が地を編む集落内で、生まれ落ちた子どもと家族が時を過ごす。

y 軸を伝ってこの拠り所から一歩踏み出した子どもと家族は、やがて自身の生まれ落ちたこの地へと還ってくる。

姿をかえ続けてきた集落の移ろう風景のなかに、人々が繋いでいく生命の息吹が続くことを願い、設計を行った。

【現状の東平地区】

人の生活のわかる遺構

娯楽場の回転舞台跡



階段

階段や石垣によって食い止められた緩やかなスロープが至る所にみられる」



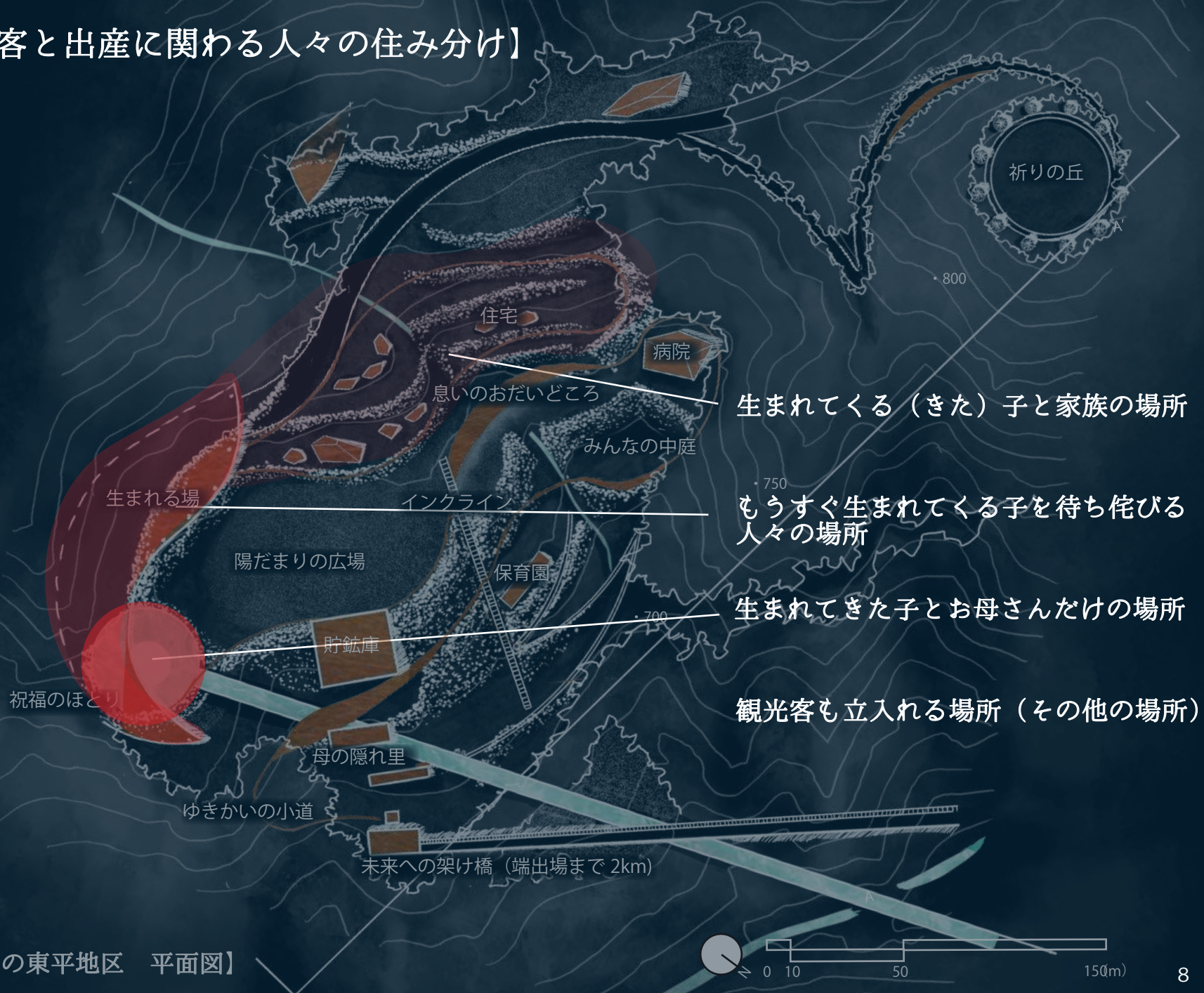
キラキラ輝く、鉱石を含んだ石材で舗装されている。



銅の産業遺構



【観光客と出産に関わる人々の住み分け】



【植物】

○別子銅山の植生

銅山地帯は数々の土地的条件や人為による植生の攪乱等で、一般とは異なった生物相が見られる。

○人口植栽 → ヒノキ・カラマツ等の植林

○自然植生

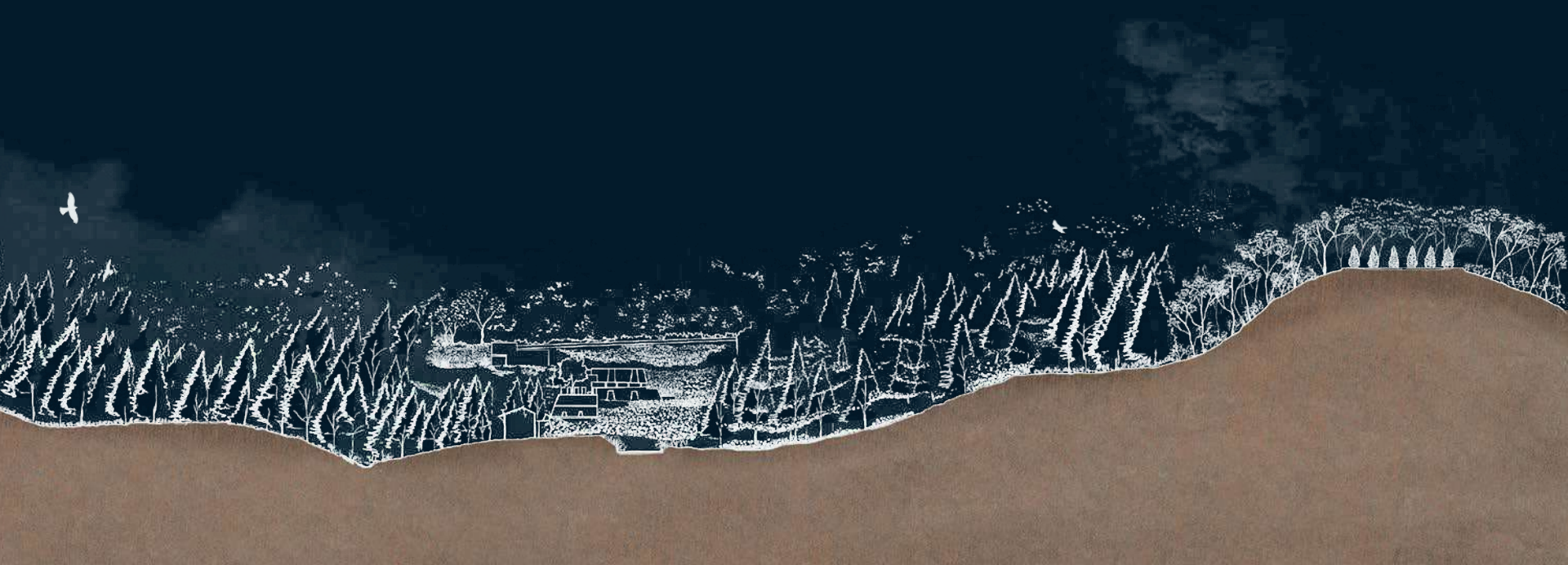
樹木

アカマツ、ヤナギ、ウツギ、ツツジ類 (陽地性の灌木が疎開して生じている)

アカモノとツガザクラ→ 遺存群落 として非常によく発達している

草本

ヘビノネゴザ、イタドリ、タカネオトギリ、ヨモギ、ホソバノヤマハハコ、ススキ、ヒメノガリヤス



【ひととのかかわり】

管理・運営

出産する人とその家族



出産までの間、身の回りの掃除などを行う。
草取りなど、子供と共に
行う

出産した人とその家族



定期検診や結婚式などでお金を落とすことによって管理していく

観光客

【住友と別子銅山】

元禄4年(1691年)の開坑から1973年(昭和48年)の閉山まで一貫して住友家が経営し(閉山時は住友金属鉱山)、関連事業を興すことで発展を続け、住友が日本を代表する巨大財閥となる礎となった。

管理・金銭・風景を残す
安心して出産できる場の提供

管理・金銭・風景を残す

定期検診、結婚式
第2の故郷となる

金銭・歴史を知り、風景を残す
文化資源の共有

管理・運営

住友

景観の維持・維持費負担

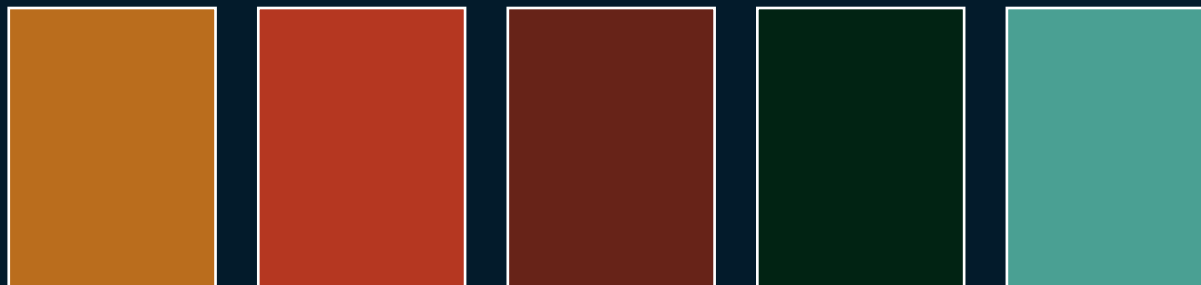
新たな産業の創出

行政

山から海までの景観を維持。子供たちが定期的に訪れる場所

【銅の使われ方】

銅の色の変化



銅は純銅および合金として 5,000 年 以上も使用されている。

美しい光沢を呈し、化学的抵抗性が大きい。

しかし表面が環境と反応して反応生成物ができることによって金属表面の個有色が変わる。

銅の酸化が進むと、色は以下のように変化する。

赤褐色 → 褐色 → 暗褐色 → 黒褐色 → 緑青色

(例)

銅ぶき屋根の交換 60 年～ 100 年

一方で、369 年前のものも残っている 定光寺 徳川義直公の廟

ピカピカ 数か月

光沢が落ち着く 半年

数年 黒い茶褐色

～ 100 年 緑青